



きゅうと

VOL.1

NO.2

2007.2

九州大学附属図書館報



熱き時代

アーカイブでよみがえる炭鉱

平成19年2月15日(木)~20日(火)

10:00~18:00(最終日は~16:00)

アクロス福岡 2階交流ギャラリー



CONTENTS

※「資料紹介」に関連記事を掲載しています。

- つなぐ こんな図書館になったらいいな
- 資料紹介 『熱き時代~アーカイブでよみがえる炭鉱(やま)~』より
- 自著紹介
- NEWS

- 九大の会員制Webサービス、はじめました!
- きゅうとサービスにRefWorksが加わりました
- 図書館員のおしゃべりコラム



こんな図書館になったらいいな

21世紀プログラム課程2年 柿並 里佳

24 時間、開いている図書館

中央図書館は、22 時に閉館し、この時間も十分国内の大学の図書館としては長いと思うのですが、遅くまで研究している院生や、テスト前の学部生、休日(18:00 に閉館)にゆっくり利用したい人がたくさんいるのではないのでしょうか。ただ、管理や予算の問題で難しいことは、十分わかっているのですが・・・

何かのきっかけになる図書館

例えば書架も、背面でタイトルだけを見せるようにするだけでなく、本屋さんのように利用者の興味をひく形で、ところどころ展示してみたらおもしろいのではないかと思います。普段、本を探す際は、OPAC で検索し、目的の本に行きつので、なかなか他の本に寄り道することがありません。ふとしたきっかけで、普段読まないような本を手にとれたら、もっと自分の世界や知識が広がるのではないかと、思います。様々な学部の先生が推薦している本をコメントつきで展示してあったら、見た目にも楽しくなるのではないのでしょうか。『きっかけは、九大図書館』のようなテレビで流れているキャッチコピーの状況が作り出せたら、楽しいですね。

DVD や音楽がある図書館

AV コーナーでは、ビデオや CD、DVD を自由に視聴できますが、なかなか学生の興味をひかないものが多いように思います。文化的価値の高い映画や、音楽もクラシックでもいいのですが、貸し出しができたり、ソファでゆっくり音楽を聴けたりすればいいと思います。本の貸し出し、勉強をするための場所ではなく、こんなことを言うとな怒られそうなのですが、遊べる図書館にもなればいいな、と思います。

つい行きたくなくなってしまいう図書館

そのためには、利用者のマナーに対する協力が不可欠です。お菓子を食べながらであったり、おしゃべりしていたり、机に消しゴムのくずが落ちたままであったりしたら、他の利用者はあまりよい気持ちで利用できないですね。快適で、つい行きたくなくなってしまいう魅力的な図書館づくりにご協力お願いします^o^



My Library

My Library というシステムをご存知でしょうか。インターネット上で、他館からの本の配送などが行えるというものです。私も利用したのは最近なのですが、なかなかすごいですよ。次の日には、本が配送されたので、図書館まで取りに来てくださいという旨のメールが届いていました。キャンパスが分散していて、学生の私達には、不便なことが多いのですが、このサービスで本の利用に関しては、解消されるのではないのでしょうか。また、本の延長がインターネット上で1回だけ、予約者がいない場合に限りできます。それから、自分が今まで借りた本の履歴も見ることがができますよ!あ、一年前、こんな本借りてたっけという発見もあってなかなか楽しいです。九大生のみなさん全員が、My Library のシステムを使うようになればいいですね。

今回は、こんな図書館になったらいいな、ということでしたが、私自身も、利用者が気持ちよく利用できるように、学生の時間外勤務ではありますが、貢献していきたいと考えています。ぜひ、九大附属図書館をご利用ください。

「つなぐ」にあなたの投稿をお待ちしています!

きゅうと NEWSLETTER は、「利用者と図書館・資料をつなぐ」「図書館が利用者同士をつなぐ」をコンセプトに、利用者、特に学生のみなさまを主な対象とした、読みやすくフレンドリーな情報誌を目指して、昨年 12 月に創刊しました。

この「つなぐ」のコーナーに、あなたと図書館、あなたと利用者のみなさんをつなぐ記事を募集しています。

図書館に望むこと、学生や後輩に薦めたい本の紹介、図書館のあんなこんな活用法などなど、図書館や資料にまつわる話をお寄せ下さい。

対象:九州大学で学んでいる方・働いている方

字数:500-1000字

提出方法: doc、jtd、txt形式(画像が入る場合はjpg、tiff形式)の電子ファイルを、e-mailに添付してお送りいただくか、フロッピーディスクかCD-Rに保存して下記までお送り(ご持参)下さい。ご提出の際は、所属・氏名・連絡先をお知らせ下さい。

提出・お問合せはこちらへ: 附属図書館企画係 (電話:642-4264 kikaku@lib.kyushu-u.ac.jp)

資料紹介

「熱き時代 アーカイブでよみがえる炭鉱（やま）」より



附属図書館では、福岡県立図書館との共同展示会「熱き時代 —アーカイブでよみがえる炭鉱(やま)—」を、2月15日～20日、アクロス福岡にて開催します。今回は、その出品予定の資料から、代表的なものをいくつか紹介いたします。



炭鉱の坑内作業は、採炭・運搬・仕繰(しくり)などの作業にわかれ、坑内夫によってさまざまな道具が用いられました。図の鶴嘴(つるはし)は、石炭を採掘するもっとも重要な道具です。穂先が痛んだ場合は火が入れられました。昭和期に入って、予備品と穂先の差し替えができる改良鶴嘴が発案され、採炭夫は、替刃3～4個を針金の輪にさし、腰にぶら下げて入坑しました。今回の展示会では、この他にも、様々な採炭道具を展示します。



炭鉱の現場は、「掘る」(採炭・掘進)・「運ぶ」(坑内運搬・坑外運搬)作業が中心となります。

炭鉱の黎明期には、「掘る」側は鶴嘴を用いて採炭・掘進を行い、「運ぶ」側は背負籠に石炭を載せ、坑外へと搬出していました。

1880年代以降、大規模炭鉱を中心に採掘及び運搬の両過程において運搬機械や電気の導入がすすみ、戦後の閉山に至るまで、より能率がよく、より安全な方法へと進化を遂げていきました。

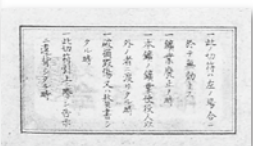


子供たちの生活の場となったのが、炭鉱住宅いわゆる炭住(たんじゅう)です。遊び場を見つける天才である子供たちは隣近所の子供たちとありとあらゆる遊びを創造し、開拓していったことでしょう。

写真は、子供たちが楽しげに「かごめかごめ」で遊んでいる様子です。写真家山口勲氏が撮影したもので、遊びに夢中になる、明るい朗らかな筑豊の子供たちを生き生きと蘇らせています。



炭鉱札 金丸鉱業(株)



炭鉱会社が炭坑夫に支払う賃金のうち、一部または全部が「切符」「炭札」「斤札」という会社独自の「札」で支払われていました(大正8年に法的に禁止されるまで。しかし不況期には登場)。これを、学問的にまとめて「炭鉱札」とよんでいます。

炭鉱札はおもに炭鉱会社内の購買所などで使用されましたが、地域で通貨のように通用するものから、「ヤマ以外には通用せぬ」ものまで千差万別でした。

今回展示する資料の多くは、附属図書館付設記録資料館が旧石炭研究資料センターから受継いだ資料群です。記録資料館の産業経済資料部門では、蓄積された膨大な資料を系統的に整理・保存し学術研究に供するとともに、社会に向け地域資料を活かした情報発信を行っています。

■関連講演会(定員120名:要事前申込)

平成19年2月18日(日) 午後2時～3時30分 アクロス福岡 1階 円形ホール

講師: 荻野喜弘(九州大学附属図書館付設記録資料館 館長)

演題: 「炭鉱って何だったのだろうか —わたしの筑豊—」

申込先: アクロス福岡文化観光情報ひろば(TEL 092-725-9100)

■同時開催 パネル展「心の故郷(ふるさと)～炭鉱と暮らし～」

アクロス福岡 1階コミュニケーションエリア(円形ホール前)にて

■関連映画上映会【特別企画】

平成19年2月22日(木)～25日(日) 福岡市総合図書館 映像ホールシネラ

上映作品: 「炭鉱(ヤマ)に生きる」(2004年 70分)

「海底炭鉱に生きる 池島からの報告」(1983年 54分)

自著紹介 本学教員より寄贈いただいた著作です。ぜひ読んでみてください



誌面の都合により、一部次号掲載とさせていただきます。

名誉教授（歯） 中山 宏明

「遺伝子から生命をみる：分子生物学の誕生と発展」

関口睦夫, 中山宏明, 真木寿治, 清水信義著

ISBN: 4320056302

共立出版 2006.4

分子遺伝学は分子生物学という裾野を拡げながら大発展を遂げ、ついにヒトを始め多くの生物でゲノムの構造をまるごと明らかにするところまで来た。いまや分子遺伝子は生命科学を学ぶすべての者にとって必須の基礎である。本書は関口睦夫名誉教授の企画により、これから分子遺伝学を本格的に学ぼうとする人々のために書かれた入門書であるが、類書にはない特色を持っている。

多くの分子遺伝学の教科書あるいは入門書では、最新の研究成果が完成した形で提示され、それを理解するための必要最小限の基礎知識が紹介されている。しかしそれでは問題の本質を把握するには不十分である。研究の過程で発表された重要な論文を読み、概念形成の道筋を歴史的に辿ることがきわめて大切であり、それなくして真の理解に到達することはできない。しかしこれは初学者にとって容易なことではない。

本書執筆の動機は、そのようなギャップを埋めることであった。そのために分子遺伝学の重要な問題に焦点を絞り、研究の発展の過程をできるだけ分かりやすく説明するとともに、歴史的意義の大きな原著論文に接するいとぐちをも提供した。

[中央図書館 / 医学分館に所蔵]

名誉教授（工） 小野寺竜太

「古賀謹一郎：万民の為、有益の芸事御開」

ISBN: 4623046486 小野寺竜太著 ミネルヴァ書房 2006.5

このたび専門違いですが、幕末の儒学者、古賀謹一郎の伝記を上梓しました。古賀謹一郎は儒者でありながら洋学を研究し、ペリーが来た三年後(1856)に、今の東京大学の前身となる「蕃書調所」を開設した人で、我々大学人の先祖です。

古賀家は佐賀の出で、三代続いて昌平黌の儒者でしたが、謹一郎は鉄精錬や化学分析、蒸気機関などの工学にも興味を持ち、長崎出島で蘭医ファン・テン・ブルックの科学実験を見た際の漢文叙述などは洋学史の中でも珍しいものです。謹一郎はまた開国の先覚者でもあり、貿易の振興による富国強兵策を明晰な言葉で述べた日本最初の人でした。彼が老中阿部正弘に提出した意見書は、その議論の切実さと真摯さで今読んでも感動します。

しかし儒教道徳に忠実だった謹一郎は「逆賊薩長政府」に仕えることを潔しとせず、二度に亘る明治政府の招請を拒絶し一介の市井の老人として明治17年に死にました。激動の時代の知識人の生き方として面白いですから、是非買って読んで下さい。

[六本松分館に所蔵]

歯学部・臨床教授 高島 昭博

「修復処置を伴う歯周疾患治療：treatment planning」

ISBN: 4263442229

高島昭博著 医歯薬出版 2006.7

進行した歯周疾患は、歯周疾患そのものの病態に加えて、咬合性外傷などの影響を受け、さらに進行が加速されて歯の欠損に至ります。

こうした症例に対して、イニシャル・プレパレーションから修復物の製作・装着、メンテナンスまで、患者さんの問題も含め、どのように治療、処置を進めていくべきか、そのトリートメント・プランニングを中心に整理・各臨床ステップにおける考え方や手技の実際を提示しつつ、著者の臨床のすべてを集大成いたしました。

著者の臨床経験の蓄積から分析・考察された「症例のパターン分け」「ステージ分け」や「経時的なエックス線写真の重ね合わせによる客観的評価（デジタル・サブトラクション法）などについてもわかりやすく解説しています。

[医学分館に所蔵]

経済学研究院教授 堀江 康熙

「テキスト金融のメカニズム」

堀江康熙ほか著

ISBN: 4502657409

中央経済社 2006.9

本書は、金融の実像を、金融市場、金融機関、取引手法および金融政策との関係を含めて、体系的・整合的に理解していくことに重点を置いている。その大きな特徴は、第1に新時代の変化を十分に織り込み、現代の金融システムを前提に体系化していることである。これまで金融論としてそれほど取り挙げられてこなかった分野も含めて、近年の金融現象を幅広く理解することを重視している。第2は、金融を応用経済学の一分野と位置付けつつも、現実を生じている金融現象の大きな流れを押さえ、その基本的なメカニズムを体系的に捉えていくことに力点を置いている点である。

主たる読者層は、学部学生・大学院生であり、経済学の初歩的な知識ないし一般的な常識があれば、十分に理解できる内容である。その意味では大学におけるテキスト・参考書に通じているが、広く社会人、特に金融実務に携わる人々にとって、知識・理解を体系的に深める有力な手がかりとなると考えている。テキストとして使用する場合、通常の4単位の金融論であれば26回前後の講義が行われると考え、1回につき1章が相当するよう工夫した。

[文系合同図書室(経済)に所蔵]

このほか、以下の先生方より、著作をご寄贈いただきました。

名誉教授・理 間瀬 正一

「金属電子論：特にフェルミ面・その不安定性と諸現象」

ISBN: 4842596082

間瀬正一著 養賢堂 1996.4

[中央図書館]

「量子力学に置ける群論的方法」

B.L.van der Waerden著 間瀬正一訳 養賢堂 1998.3

ISBN: 4842598093

[中央図書館]

医学研究府大学院生 樽味 伸

「臨床の記述と「義」：樽味伸論文集」

ISBN: 4791106148

樽味伸著 星和書店 2006.10 [医学分館]

留学生センター教授 鹿島 英一

「漢字の情報理論」

ISBN: 4946570071

鹿島英一著 福岡:白沙ヶ濱 2006.9

[中央図書館]

法学研究院教授 石川 捷治

「スペイン市民戦争とアジア：遙かなる自由と理想のために」

ISBN: 4873789168

石川捷治, 中村尚樹著 九州大学出版会 2006.3

[中央図書館、医学分館、筑紫分館、六本松分館]

NEWS

中央図書館に飲食コーナーを設置します

中央図書館では、3月より、ブラウジングルーム内に飲食が可能なフレッシュコーナー(仮称)を設置する予定です。

室内にはテーブルやカウンターなどの他、自動販売機(飲み物のみ)を設置し、飲食をしながらの休憩、気分転換ができる空間を提供いたします。どうぞ、お楽しみに。



イメージですので、実際とは多少異なる場合があります

『筑豊石炭鉱業組合月報』写真の公開について

記録資料館所蔵の『筑豊石炭鉱業組合月報』の写真をホームページに公開しました。これは、明治40年以後、筑豊石炭鉱業組合が傘下炭鉱を撮影し、雑誌『筑豊石炭鉱業組合月報』で毎月紹介したもので、全77点の写真をご覧になることができます。

「附属図書館HP > Research > 学内コンテンツ > 電子化コレクション」からご覧ください。

九大の会員制 Web サービス、はじめました！

九大の中の同じ興味を持つ人と交流できたら、刺激があっただらいいな

ゼミのみんなに
いっせいに連絡できて、
見たかどうか確認も
できたらいいな

サークルの
メンバーだけの
掲示板がほしいな
でもパスワード管理は
ちょっと…

どんなことができるの？

- ・コミュニティ
VARRYの中に、任意にグループ(=コミュニティ)を作ることができます。コミュニティでの会話はメンバーのみに公開を限定できるので、サークルやゼミの掲示板として使えます。
- ・ナワバリマップ
お薦めスポットを地図上に登録！メンバー間でお薦めスポットを共有することができます。コンパや待ち合わせにも便利！
- ・レビュー
メンバー間で本やCDのレビューを見せ合おう。図書館員が、図書館のお薦め本を紹介もしますよ。

mixi や GREE などの、他の SNS とは何がちがうの？

- ・VARRYには九大以外のメンバーもいますが、九大に所属するメンバー同士では本名を確認できるので、九大人どうして安心してコミュニケーションができます。
- ・九大のメンバーをあらわすロゴが表示されるので、九大人としてのステータスと責任を伴った活動ができます。
- ・VARRYとmixiに日記を同時に書き込むことができます。

図書館では、e-Worldプロジェクト*1の一環として、福岡地域限定のSNS*2であるVARRY*3と連携し、九大SNSを作りました。

九大人と九大人のつながりをサポートする会員制のWebサービスです。友達を誘ってぜひ参加してみませんか？

*1 e-Worldプロジェクト：九州大学の全学共通ICカード導入実験と並行して行っている、情報家電ネットワーク時代の新しいビジネスモデル構築に向けた社会実験プロジェクト

詳しくは、<http://www.miid.kyushu-u.ac.jp/> をご覧ください

*2 SNS (Social Networking Service)：メンバー間でWebページ上で交流できる会員制サービス。GREE や mixi などが代表格

*3 VARRY (ベイリー)：福岡のカプセルコーポレーション社が運営。会員数約4500人

図書館との連携ってどういうこと？

- ・図書館の利用者で、kyushu-u.ac.jpで終わるメールアドレスを持つ人なら、すぐに参加可能！
- ・図書館員が積極的に参加して、みなさんの情報入手や検索をサポートします！
- ・今後、図書館ホームページやOPAC, MyLibrary, 電子ジャーナルといった図書館のサービスとの連動をはかっていきます！

*こんなことができたならなあ、というあなたのアイデアが、図書館を変えるかも・・・

図書館利用者IDとメールアドレスを入力して招待状をGET!
→ <http://sns.lib.kyushu-u.ac.jp/>
ぜひ、日ごろ交流のある友達を誘って、使ってみてください。

きゅうとサービスに

 **RefWorks** が加わりました!

WEBベースの文献管理ツール

RefWorks はあなたの論文作成を助けます

- 個人の文献リストをオンラインで作成
- 文献データベースから、Webサイトから、RSSフィードから、文献データを取り込み
- フォルダによる文献リストの整理
- 文献リストからフルテキストへのアクセス
- 論文の参考文献リストを自動生成
- ゼミや研究グループでの文献リスト共有



- ・ 24時間いつでもどこからでもアクセス可能
- ・ 九州大学に所属の方ならどなたでも利用できます

附属図書館 **WEBサイト > RefWorks** (<http://www.refworks.com/refworks/>)

お問い合わせ / 附属図書館調査サービス係 ref1@lib.kyushu-u.ac.jp

図書館員の



クリスマス休暇を利用して、ウルル(エアーズロック)に行ってきた。ウルルといえば、ベストセラーとなった小説『世界の中心で、愛をさけぶ』でのキーワードとして印象に残っている方も多いだろう。著者の片山恭一氏は、九州大学の卒業生でもある。

ウルルといえば「岩に登るもの」という印象が一般的に強いのではないと思うが、実際のところ、気温や風雨等による規制で登山が禁止になる日も多い。私が訪れた日も強風のため登山口が閉鎖されていた。更にこの場所は、先住民アボリジニの人達にとって聖地であるため、登るという行為自体がデリケートな問題をはらんでいる。現在、周辺の土地を含む所有権はアボリジニの人々が有し、正式名称も「エアーズロック」ではなく「ウルル」というアボリジニの呼称が用いられるようになっている。

『世界の中心で、愛をさけぶ』を読んでウルルに興味を持った方は、関連書籍で一層知識を深めるのもよいかもしれない。九州大学附属図書館でも、アボリジニをテーマとする図書を所蔵しています(『世界の中心で、愛をさけぶ』もあります)。

